

JAL 愛媛原告を支える会



発行：JAL 不当解雇とたたかう愛媛原告を支える会
 連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内
 松山市三番町8-10-2 Tel. 089-945-4526

私も 応援 します

JALの不当解雇から10年が経過しました。この不当解雇の根本原因は会社経営の責任逃れにあることは言うまでもありません。解雇当時の稲盛会長が「解雇する必要はなかった」と語っているように本当に不当なものです。

この10年間、不当解雇撤回の闘いを日本全国で続けてこられた争議団の皆さんは苦難の連続であったかと思えます。しかし、必ず勝利して職場復帰を果たすのだ、会社の不正を正すのだとの強い思いのもと、頑張ってきたことに対して心からのエールを送りたいと思います。

愛媛の争議団の人たちは前向きで明るく元気に、地域の民主的な団体やグループの

明るく元気な活動にエールを

農業生産法人 「百姓百品」グループ代表 和気 数男

活動に積極的に参加し、地域の問題解決にも共同しながら、不当解雇の撤回を訴えておられます。そして多くの人々の共感を得、理解者を増やし、支援の輪を大きくしています。私は、皆さんの活動に対して敬意を表します。

政府はコロナ禍のいま、自粛を求める一方で補償は行わず、持続化給付金や家賃支援まで打ち切り、中小企業や弱者を切り捨てようとしています。効率一辺倒の新自由主義路線の経営者に命を預ける訳にはいきません。そのためにも、解雇の不当性を1日も早く認めさせ、職場復帰をしていただきたいと思えます。

みんなで支援の輪を広げて応援します。

若い世代の夢や希望につながる闘い

新年明けましておめでとうございませう。昨年はコロナに振り回された1年でした。今年もどうなることやら。活動が著しく制限されることも考慮しつつ、できることから粛々とやっていくしかありません。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

新春のえひめ支える会ニュース。なるべく明るい話題をと考えていると頭が固まってしまい、締め切りを過ぎても思いが募って来ず、ここに来て、やっと閃きました。51回目のテーマはこれだ！

2012年リオ・デ・ジャネイロで開かれた国連の持続可能な開発会議で、当時ウルグアイの大統領だったホセ・ムヒカ氏は、豊かさを追い求める国際社会の在り方を痛烈に批判し、任期中、報酬のほとんどを受け取らず、公邸に住まず、農業をしながら質素な生活を続けたことから「一躍脚光を浴び、「世界で一番貧しい大統領」と呼ばれるようになりました。

友人から安く買い受けたボロボロのフォルクスワーゲンを100万ドルで売ってくれと申し出た中東の大富豪に「友人が悲しむかもしれない」という理由で断った話

も有名です。そんなムヒカ大統領に魅せられ、会いに行った女子大生がいます。

立命館大学4年生の岩本心（こころ）さんです。彼女はメキシコ



ホセ・ムヒカ元大統領と岩本心さん

人の兄弟とともに日本に戻ってきて、日本人が自分の思ったことを口に出さず、周りに気にして生きていくことに子供ながら不思議だったと言います。

（裏面に続く）

で日本人の父と日系メキシコ人の母の間に生まれました。家ではお手伝いさんがいる暮らしでしたが、街の中で貧しい人たちを見て育ち、小学校2年生の時に父と4

JAL 不当解雇撤回争議団
 西予市在住 大池ひとみ

そして、メキシコは貧しい人が多かったけど、みんな幸せそうな顔をしていた、とも。

ムヒカ大統領のことを知り興味を持ち始め、世界中で起きている貧困、差別、虐待などで苦しんでいる人たちの実態を知るため、語学留学先のメキシコから世界一周の旅に出たそうです。風光明媚な観光地や歴史ある建造物などには目もくれず、貧民街、スラム街、負の遺産であるアウシュビッツやチェルノブイリなど、およそ女子大生には似つかわしくない場所を回ったそうです。

そんな彼女は、ムヒカ元大統領に会いたい、でもそんなこと無理だろうと諦めていたところ、父親から「ぜひ会いに行きなさい。でも、会いに行つて握手をしただけで満足しちゃだめだよ。インタビューしてもらつてきなさい」と後押しされ、単身ウルグアイに乗り込み、バスに乗り、何人もの人に道を尋ねながらムヒカ元大統領の家にとどり着いたそうです。「口から心臓が飛び出しそうなくらい緊張した」と彼女は言っていました。いえ、ウルグアイの元大統領です。そんな雲の上のような人に、一介の東洋の小娘がアポイントメントもなくやつてきて、果たして会つてくれるのかどうか。

ムヒカ元大統領は肩を抱いてやさしく自宅に招き入れマテ茶をこ馳走しながら、いろんな話をしてくれたそうです。そして、日本の若者たちに対してメッセージを送ってくれました。「学校っていうのは勉強するだけの場所じゃなくて、生きる理由を見つ

ける場所なのだ」と。そのことを伝えたいと思い、彼女は帰国後、新聞に投稿しました。

「娘の記事が新聞に載ったんよ」と心ちゃんの父親が私にLINEを送ってくれました。心ちゃんのお父さんと私は中学時代のクラスメートだったのです。

心ちゃんは新聞投稿だけではなく、もっと多くの人に知ってもらおうと報告会を開くことにしました。クラウドファンディングで資金集めをして準備を開始。ところが、新型コロナウイルスの影響で延期となつてしまい、秋の終わりにやつと開催にこぎつけることができました。学業と並行してアルバイトをして生活費を稼ぎながら、こんなことまでやつてのける

22歳が日本にもいるんだ。しかも、私の身近に。世界を飛び回っているいろいろなことを見聞きしてそれなりに知識を身につけてきたと思つてきた私はとても恥ずかしくなりました。世界のことなんて何にもわかつちやいなかつたんだ。

心ちゃんはいずれ国連に就職したいという夢を持っています。素晴らしい挑戦です。彼女ならきつとやつてくれるでしょう。

ムヒカ元大統領は若い頃ゲリラ活動をしていて、6発の銃弾を受け、何度も投獄され、一番長いときは13年も独房に閉じ込められていました。「気が狂いそうになつた時もあったけど、その時は自分

が今まで読んだ本を思い返して、何度も何度も頭の中で読んでいた」と『世界でいちばん貧しい大統領から日本人へ』というドキュメンタリー映画の中で彼は回想しています。

出獄できたからこそ、気が付いたら13年と言えますが、独房の中ではいつ解放される日が来るかわからない状態が13年も続いたのです。

私たちも、「今年こそ、今年こそ」と思い続けて10年が経ってしまいました。これからのどのくらいかかるか誰にもわかりません。でも過去を振り返っている余裕はないのです。

心ちゃんと会つたのは、JALの会長・社長宛てにメッセージを要請している時でしたので、心ちゃんにもお願いしました。

「私はこれから社会に出る大学4年生です。将来に夢や希望を持って、来年の春大学を卒業します。日本航空が、家族同然である社員に対していい加減な扱いをしたことを償って頂けなければ、私達若者は不安を持って社会へ出ていくこととなります。私達若い世代を失望させないでください。上記の早期解決を若い世代を代表して、求めます。」と書いて送ってくれたそうです。

ムヒカ元大統領も来日したとき「日本は進歩を遂げた国だが、それで本当に日本人は幸せなのか」、「日本人は絶望的に仕事をしているように見える」とスピーチしています。

私たちの闘いは、自分たちのことだけでなく、働くすべての労働者の権利を守るとともに、若い世代の夢や希望につながる大事な闘いなのだと改めて感じました。心ちゃんたちの未来のために、人生の先輩として皆で力を合わせて前進あるのみです。

